

東北応援ツアーレポート

参加者氏名 大嶋 誠

卒業年 1986年 卒業学部 文学部

今回、東北応援ツアーに参加し心強さを感じました。一日目に立命の先輩に当たる中井勝巳先生（福島大学学長）の詳細なレポートをお聴き、福島県の被災の状況や被災され他地域に避難されている住民の方々の意識の変化などを知ることができました。福島の現状や震災復興の動き、未来に向けての計画など多方面から調査されており、とても分かりやすいレポートでした。大学の研究室が復興に援助の手を差し伸べても、地元住民からは拒否されるケースが多いと聞き、大学での研究と現実面でのギャップも感じました。中井先生ありがとうございました。また、津波と放射線の影響で避難地域になっている浪江町に入り、中井先生のゼミの教え子である本間副町長の現地での解説も参考になりました。3.11前は2万人が生活していたが、現在はローソンとガソリンスタンド、町役場以外に人の気配をあまり感じられない町に寂しさを感じました。「日本一安心・安全な町」のスローガンも空しく思いました。ただし、町役場の隣に小さな商店街が建設され、そこで働く人々の明るい笑顔を見て復興の兆しを感じ取りました。また夜にはスパリゾートハワイアンズに宿泊し、多くの観光客が戻ってきていた姿を見て、炭鉱廃坑から映画フラガールのように復活した常磐ハワイアンセンターを思い出しました。最後にオランダの技術を活用しコンピュータやロボット技術を活用し、多くのトマトを栽培する「あかい農園」を訪れ、その先進性と日本の農業の将来の姿はここにあるのかなとも思いました。減少する農業人口、高齢化する農業就業者を嘆くのではなく先端技術を活用することによりオランダのように農業を魅力ある儲かる産業に変えることにより、これからの未来を支える若い人々の職業になると確信しました。鮮度と質を重要視する野菜などは他国との競争にも勝てると思います。今回の旅で多くの立命人にお会いし、多くのことを学ぶと同時に将来に不安を感じていた私にとって勇気づけられる旅にもなりました。本当にありがとうございました。また多くの面でサポートしていただいた福島県校友会の方々には心から感謝申し上げます。